

研究の概要

20 24 年 8 月 2 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	先体反応精子を用いたICSI(ICSI with acrosome reacted sperm:AR-ICSI)
代表研究者 (所属・氏名)：	医局・中岡 義晴
研究の目的：	自然の受精過程では卵子細胞質内に先体酵素が持ち込まれないため先体を除去した精子によるICSIが望ましいと思われるが、現状では確実な精子の先体除去法は確立されていません。当院では先体反応誘起物質であるプロゲステロンと透明帯を組み合わせることにより先体反応率が上がるということを報告した(生殖医学会2022)。採卵時の卵胞液中の自己細胞により抽出したP4(自己細胞由来P4)と透明帯を用いて安全に精子に先体反応を起こさせることも報告した。(受精着床学会2023)今回は自己細胞由来P4と透明帯を用いて先体反応を起こした精子を用いてICSIを行い、胚の発生の比較検討を行います。
調査データ該当期間：	20 23 年 3 月 27 日 ~ 20 24 年 8 月 2 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	上記の期間に先体反応精子を用いたICSI(ICSI with acrosome reacted sperm:AR-ICSI)の説明書をお配りし、同意書を提出していただいた患者様が対象となります。 研究の対象条件に変更があります。 (詳細については説明書を参照ください。) 変更前：ICSI症例でICSIに用いない卵子(未熟卵や変性卵等)があり、かつMII卵子が6個以上ある症例 変更後：ICSI症例
個人情報の取り扱い：	個人が特定できないように連結可能匿名化を行い、個人情報を保護しています。
本研究の資金源 (利益相反)：	なし
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	06-6534-8824 生殖技術部門・大浦 朝美
備考	